

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 19No. 4; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009191

1994—19_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告



ニヴフのアザラシ猟と送り儀礼———大塚和義

涼山彝族の口誦詩にみえる漢族のイメージ———小門典夫

Values and Chinese Immigrant Entrepreneurship

in Singapore —— Chan Kwok Bun and Claire Chiang See Ngoh



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

19 卷 4 号

1994 年

目 次

ニヴフのアザラン獵と送り儀礼	大塚和義.....	543
涼山彝族の口誦詩にみえる漢族のイメージ	小門典夫.....	587
Values and Chinese Immigrant Entrepreneurship in Singapore	Chan Kwok Bun and Claire Chiang See Ngoh.....	633
彙 報		657
国立民族学博物館研究報告 19巻 総目次		667
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		668
国立民族学博物館研究報告執筆要領		669

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 19 No. 4

1994

OHTSUKA, Kazuyoshi	Nivkh Seal Hunting and Ritual	543
KOKADO, Norio	Images of the Han-Chinese Reflected in the Oral Poetry of the Liang-shan Yi	587
CHAN, Kwok Bun	Values and Chinese Immigrant Entrepreneurship in	
CHIANG, Claire See Ngoh	Singapore	633

彙 報

(平成6年10月～
平成6年12月)

人事異動

(教育職)

(外国人客員研究部門)

10月1日 第五研究部教授

JANHUNEN, Juha Antero

(フィンランド, フィンランド
学術協会上級研究員・ヘルシン
キ大学教授)

〈任期6.10. 1～7. 9.30〉

11月4日 第五研究部助教授

VICTORIA, Brian Andre

(アメリカ合衆国, オークラン
ド大学講師)

〈任期6.11. 4～7. 2.28〉

シンポジウム

◎特別研究「20世紀における諸民族文化の伝
統と変容シンポジウムⅢ 観光の20世紀」

期間 平成6年10月13日(木)

～10月15日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、「観光の20世紀」をテーマ
に、観光が20世紀の諸民族文化にあ
たえたインパクトについて、さまざ
まな民族の事例を中心に、グローバ
ルな視野のもとで活発な討論がおこ
なわれました。

シンポジウム委員会

実行委員長

石森 秀三 国立民族学博物館第四研究
部

実行委員

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究
部

新免光比呂 国立民族学博物館第三研究
部

森 明子 国立民族学博物館第三研究
部

吉本 忍 国立民族学博物館第五研究

部

事務局

江藤 靖弘 国立民族学博物館管理部研
究協力課国際協力係

今田 好子 「20世紀」事務局

報告者

池田 光穂 熊本大学

石森 秀三 国立民族学博物館

井野瀬久美恵

甲南大学

江口 信清 立命館大学

太田 好信 九州大学

大谷 裕文 西南学院大学

大塚 和義 国立民族学博物館

奥野 卓司 甲南大学

栗田 靖之 国立民族学博物館

小長谷有紀 国立民族学博物館

小山 修三 国立民族学博物館

高田 公理 武庫川女子大学

永淵 康之 名古屋工業大学

安福恵美子 聖徳学園女子短期大学

山中 速人 東京経済大学

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館

上杉 富之 国立民族学博物館

神崎 宣武 旅の文化研究所

キム・ヤンジュ

漢陽大学校

久保 正敏 国立民族学博物館

櫻井 哲男 熊本大学

佐々木高明 国立民族学博物館

白幡洋三郎 国際日本文化研究センター

田中 雅一 京都大学

田村 克己 国立民族学博物館

ジョン・ナイト

オックスフォード大学

橋爪 紳也 京都精華大学

端 信行 国立民族学博物館

ジェニファ・ピア

カリフォルニア大学

吉野 耕作 上智大学

日 程

10月13日（木）

10:00 受付

（司会：石毛 直道）

10:30 あいさつ 佐々木高明

問題提起 石森 秀三

「観光の19世紀」（司会：端 信行）

13:00 近代観光の旅認識—その誕生と顛末— 井野瀬久美恵

13:30 楽園幻想とポリネシア観光

大谷 裕文

14:00 討論

「先住民族と観光」（司会：櫻井 哲男）

15:15 オーストラリア・アポリジニと観光 小山 修三

15:45 アイヌ民族にとって、観光はなにをもたらしただか—近代国家日本の同化政策によるアイヌ文化の否定と肯定— 大塚 和義

16:15 討論

10月14日（金）

「観光立国」（司会：神崎 宣武）

10:00 モンゴルにおける観光立国—異文化理解と観光装置— 小長谷有紀

10:30 社会主義か、死か—観光立国キューバと観光— 江口 信清

11:00 討論

「文化の商品化」（司会：田中 雅一）

13:00 楽園の創造—ハワイ諸島の場合— 山中 速人

13:30 文化の商品化をめぐる政治と文化のかかわり—バリ島の場合— 永渕 康之

14:00 討論

「ホストとゲスト」（司会：田村 克己）

15:15 観光と売買春—東南アジアの事例を中心に— 安福恵美子

15:45 鎖国と観光 栗田 靖之

16:15 討論

10月15日（土）

「観光の新しい展開」（司会：上杉 富之）

10:00 エコロジー意識の政治経済学に向

けて—ベリーズにおけるエコツーリズムの事例から— 太田 好信

10:30 物神化される文化—古代マヤ遺跡と観光客— 池田 光穂

11:00 討論

「観光の21世紀」（司会：久保 正敏）

13:00 メディアと観光—時空間を超えて— 奥野 卓司

13:30 観光の未来 高田 公理

14:00 討論

15:15 総括討論

◎民族学部門第18回国際シンポジウム「北方少数民族の言語状況と未来」

日時 平成6年11月7日（月）

～11月14日（月）

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは、情報公開が自由化したロシアの代表的研究者による最新情報をふまえ、現在までの北方言語に関する研究成果を総合的に再検討するものです。各地でみられる言語復権の試みやその展望についても、活発な討論がおこなわれました。

顧 問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
組織委員会

（委員長）

佐々木高明 国立民族学博物館長

（委 員）

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部長

659

17:15 討論
 11月10日(木)(国立民族学博物館)
 第2セッション
 「北方少数言語状況の地域的多様性」
 (座長: 庄司 博史)
 9:30 イエニセイからサハリンまでのエ
 ベンキ語」 Viktor D. Atknin
 10:30 討論
 第3セッション
 「国家語と北方少数言語」
 (座長: Michael Krauss)
 11:30 国家語の少数民族語と民族への影
 響 Nils φ. Helander
 12:30 討論
 11月11日(金)(国立民族学博物館)
 第3セッション
 「国家語と北方少数言語」
 (座長: 津曲 敏郎)
 9:30 シベリアにおけるロシア語化要因
 と言語生態の方策 Eugene Helinski
 10:30 討論
 (座長: Stephen A. Wurm)
 13:15 言語政策からみたアイヌ語
 切替 英雄
 14:15 討論
 (座長: 田中 克彦)
 15:15 中国東北地域の諸言語
 Juha Janhunen
 16:15 討論
 11月12日(土)
 総合討論
 9:30 総合討論 (座長: 庄司 博史)
 Juha Janhunen
 11:25 閉会式
 15:30 北海道へ移動
 11月13日(日)(北海道)
 11:00 二風谷アイヌ文化記念館見学
 11月14日(月)(北海道)
 9:30 ワークショップ
 解散

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民
 族文化の比較研究 第6回シンポジウム
 マンダラと自己—インド的宇宙論—」

期間 平成6年11月21日(月)
 ~11月24日(木)

場所 国立民族学博物館
 摘要 今回は、「マンダラと自己—インド
 的宇宙論—」をテーマに、「宇宙と
 自己の象徴図」ともよぶべきマンダ
 ラを中心に、インド及び周辺世界の
 宇宙観について、活発な討論がおこ
 なわれました。

シンポジウム実行委員会

実行委員長

立川 武藏 国立民族学博物館第二研究
 部

実行委員

清水 昭俊 国立民族学博物館第四研究
 部

田村 克己 国立民族学博物館第二研究
 部

長野 泰彦 (事務局長)
 国立民族学博物館第五研究
 部

福岡 正太 国立民族学博物館第二研究
 部

松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
 部

横山 廣子 国立民族学博物館第二研究
 部

吉本 忍 国立民族学博物館第五研究
 部

事務局

江藤 靖弘 国立民族学博物館管理部研
 究協力課国際協力係

下浦 摩紀 「アジア・太平洋」事務局
 報告者

Gary L. Ebersole

The Divinity School, Uni-
 versity of Chicago

奥山 直司 高野山大学文学部

小倉 泰 東海大学文学部

島田 茂樹 東洋大学文学部
 鷹巢 純 愛知教育大学
 立川 武藏 国立民族学博物館
 田中 公明 財団法人東方研究会
 野口 圭也 種智院大学仏教学部
 J.W.Heisig 南山大学南山宗教文化研究所
 S.S.Bahulkar
 Central Institute of Higher
 Tibetan Studies, Sarnath
 日野 紹運 岐阜薬科大学
 宮治 昭 名古屋大学文学部
 森 雅秀 高野山大学
 矢島 道彦 鶴見大学女子短期大学部
 吉崎 一美 日本ネパール協会
 和田 壽弘 名古屋大学文学部

討論者
 M. Kolhatkar
 Deccan College
 佐々木高明 国立民族学博物館
 杉島 敬志 国立民族学博物館
 関本 照夫 東京大学東洋文化研究所
 田中 雅一 京都大学人文科学研究所
 国立民族学博物館 (客員)
 藤井 知昭 国立民族学博物館
 宮家 準 慶應義塾大学文学部
 渡辺 欣雄 東京都立大学人文学部

日 程
 11月21日 (月)
 登 録
 (司会：立川 武藏)
 9:40 開会式
 館長あいさつ 佐々木高明
 運営委員長あいさつ 藤井 知昭
 (座長：立川 武藏)
 コスモスとは何か Gary Ebersole
 (座長：奥山 直司)
 13:00 自己と自我—現代の発明を発見する
 ユング思想をめぐって—
 J.W.Heisig
 ヒンドゥーの自我と世界
 日野 紹運

インド自然哲学における自我
 和田 壽弘

16:15 討論
 11月22日 (火)
 (座長：森 雅秀)
 9:40 ジャイナ教のマンダラー〈聖なる集い〉(samavasaraṇa) について
 — 矢島 道彦
 タントラ仏教における自己と宇宙
 野口 圭也
 (座長：矢島 道彦)
 13:00 マンダラの形態の歴史的変遷
 森 雅秀
 ヘールカ系のマンダラー—異形の神
 のコスモロジー— 島田 茂樹
 15:00 討論
 11月23日 (水)
 (座長：野口 圭也)
 9:40 「時輪タントラ」のコスモロジーと
 身体論はどのようにして成立した
 か 田中 公明
 The Lokadhātupāṭala (Chapter 1)
 of the Kālacakra Tantra
 S. S. Bahulkar
 (座長：田中 公明)
 13:00 南インドの宗教都市—シュリーラ
 ンガムを中心に— 小倉 泰
 ラサーマンダラ都市— 奥山 直司
 六道十王図のコスモロジー
 鷹巢 純
 16:15 討論
 11月24日 (木)
 (座長：日野 紹運)
 9:40 ネワール仏教儀礼における仏の「受
 胎」と「誕生」 吉崎 一美
 蓮のイコロジー—誕生・浄土・
 曼荼羅のシンボリズム—
 宮治 昭
 (座長：宮治 昭)
 13:00 生命体としてのコスモス—共存の
 概念について— 立川 武藏
 14:00 討論

◎文明学部門第13回国際シンポジウム「近代
世界における日本文明—交通の比較文明学
—」

日時 平成6年12月12日（月）～

12月19日（月）

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは、社会経済
や支配機構、産業文明といったいく
つかのサブテーマのもとに、交通を
めぐる諸問題について、多角的に討
論がかさねられました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

（委員長）

佐々木高明 国立民族学博物館長

（委員）

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部長

東府 義之 国立民族学博物館管理部長
湯浅 穀子 財団法人千里文化財団専務
理事

（専門委員）

Harumi Befu スタンフォード大学教授

Josef Kreiner ドイツ日本研究所所長

実行委員会

（委員長）

秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究
部助教授

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部助教授

林 勲男 国立民族学博物館第四研究
部助手

園田 直子 国立民族学博物館第五研究
部助手

加藤 建夫 国立民族学博物館研究協力
課長

宇治日出二郎

財団法人千里文化財団常務
理事

参加者

Harumi Befu スタンフォード大学教授

Peter Duus スタンフォード大学教授

Winfried Flüchter

デュイスブルグ大学教授

Sylvie Guichard-Anguis

ソルボンヌ・パリ第4大学
専任講師

Josef Kreiner ドイツ日本研究所所長

Constantine N. Vaporis

メリーランド大学助教授

秋道 智彌 国立民族学博物館助教授

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

小野寺 淳 筑波大学地球科学系講師

高田 公理 武庫川女子大学家政学部教
授

高橋 泰隆 関東学園大学経済学部助教
授

林 順子 愛知女子短期大学講師

松木 哲 神戸商船大学名誉教授

日程

12月12日（月）（オオサカサンパレス）

17:00 登録

12月13日（火）（国立民族学博物館）

10:00 館内見学

11:30 館長表敬訪問

13:00 開会式

13:10 参加者紹介

13:40 基調講演

梅棹 忠夫

第1セッション

（座長：高田 公理）

15:00 水産物輸送とその変容 秋道 智彌

16:00 討論

12月14日（水）（国立民族学博物館）

第2セッション

彙 報

(座長：林 順子)
 10:00 領域をつなぐ—参勤交代と近世社会— Constantine N. Vaporis
 11:00 討論
 第3セッション
 (座長：小野寺 淳)
 13:00 近世渡船場事情—美濃路起船場を中心として— 林 順子
 14:00 討論
 第4セッション
 (座長：秋道 智彌)
 15:30 明治以降の和船の変貌 松木 哲
 16:30 討論
 12月15日(木)(国立民族学博物館)
 第5セッション
 (座長：松木 哲)
 10:00 近代移行期における輸送機関の地域的展開 小野寺 淳
 11:00 討論
 第6セッション
 (座長：Harumi Befu)
 13:00 朝鮮半島における日本の鉄道と植民地主義 Peter Duus
 14:00 討論
 第7セッション
 (座長：Harumi Befu)
 15:30 日本植民地鉄道史について 高橋 泰隆
 16:30 討論

12月16日(金)三十石船乗船見学
 12月17日(土)(国立民族学博物館)
 第8セッション
 (座長：Josef Kreiner)
 10:00 通勤社会—通勤圏の拡大問題— Winfried Fluchter
 11:00 討論
 第9セッション
 (座長：Josef Kreiner)
 13:00 ブルートレインから閑空まで—異郷(ノスタルジー)とのコミュニケーション— Sylvie Guichard-Anguis
 14:00 討論
 第10セッション
 (座長：高橋 泰隆)
 15:30 「情報媒体」としての自動車—近代日本の生活史におけるその意味と役割— 高田 公理
 16:30 討論
 12月18日(日)(国立民族学博物館)
 総合討論
 (座長：秋道 智彌)
 10:00 討論-1
 13:00 討論-2
 15:00 閉会式
 12月19日(月)(オオサカサンパレス)
 9:30 ワークショップ
 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
黒田 悦子	教 授(第四研究部)	6.10. 3	6.10.17	アメリカ合衆国
田村 克己	助教授(第二研究部)	6.10. 5	6.10.12	中華人民共和国
大森 康宏	助教授(第五研究部)	6.10. 9	6.10.26	アメリカ合衆国, カナダ
藤井 龍彦	教 授(第四研究部)	6.10.10	6.12.16	ペルー
江口 一久	教 授(第三研究部)	6.10.10	7. 4. 7	フランス, カメルーン
杉村 棟	教 授(第二研究部)	6.10.12	6.10.21	トルコ
塚田 誠之	助教授(第二研究部)	6.10.31	6.11.14	中華人民共和国
端 信行	教 授(第三研究部)	6.11. 1	6.12.27	フランス, カメルーン
松原 正毅	教 授(地域研究企画交流センター)	6.11. 9	6.11.24	トルコ

藤井 知昭	教 授 (第二研究部)	6.11.13	6.11.17	大韓民国
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	6.11.14	6.12. 1	台湾, インドネシア
小山 修三	教 授 (第四研究部)	6.11.20	6.11.28	中華人民共和国
園田 直子	助 手 (第五研究部)	6.11.21	6.11.30	インドネシア
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	6.11.27	6.12. 7	中華人民共和国
友枝 啓泰	教 授 (第四研究部)	6.11.28	7. 2. 1	ペルー
田村 克己	助教授 (第二研究部)	6.12. 2	7. 1.10	タイ, ミャンマー, ラオス
佐々木高明	館 長	6.12. 7	6.12.13	中華人民共和国
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	6.12.27	7. 1.25	中華人民共和国
山本 紀夫	教 授 (第五研究部)	6.12.28	7. 1. 6	ネパール

来館者抄

10月14日	藤田 公郎 (国際協力事業団総裁)	ア, スロバキア国立博物館 音楽博物館副館長)
10月17日	AL-SAFI, Mahasin Abdel Godir Hag (スーダン, ハルツーム大学アジア・アフリカ研究所長), 縄田 浩志 (中近東文化センター)	10月27日 NORDENSTAM, Bertil (スウェーデン, スウェーデン王立科学アカデミー副会長・スウェーデン自然史博物館副館長), MORLEY, Brian D. (オーストラリア, アデレード植物園園長), 小原 聡 (財団法人国際花と緑の博覧会記念協会専務理事)
	ZHANGELDIN, Yelmek T. (カザフスタン, アルマティ美術館長) 夫妻	Ibrahim Ahmad Bajunid (マレーシア, マレーシア国立教育管理研究所所長)
10月18日	李 建 輝 (中華人民共和国, 国家民族事務委員会弁公庁副主任), 許 学 孫 (中華人民共和国, 民族文化宮副主任), 朱 彬 (中華人民共和国, 中国民族音像出版社副社長), 陶 頌 (中華人民共和国, 中国民族音像出版社), 市川 捷 護 (日本ビクター株式会社), 佐藤 央 (日本ビクター株式会社), 唐 大 堤 (日本ビクター株式会社)	新潟市教育委員会一行 羽鳥 敬一 (委員長), 吉村 洋子 (委員長代理), 高沢 正樹 (委員), 橋本 行雄 (委員), 石井 淳 (教育長), 渡辺喜和男 (新潟市教育委員会総務課課長補佐)
	船越 昭治 (岩手大学長), 新井 輝隆 (岩手大学事務局長)	10月31日 M. BOJNURDI, Kazem Musavi (イラン, イスラム大百科事典編纂所所長・編集長)
10月24日	KALINAYOVA, Jana (スロバキ	「21世紀のための友情計画」アセアン六ヶ国青年団一行

11月1日 近衛 甯子 (日本赤十字社副社長夫人)

11月4日 NARTSUPHA, Chatthip (タイ, チュラロンコン大学経済学部教授) 夫妻

11月8日 第36回国立博物館・美術館等連絡協議会一行

WURM, Stephen A. (オーストラリア, オーストラリア国立大学教授), HELIMSKI, Eugene (ロシア, ロシア人文科学大学教授), HELANDER, Nils φ. (ノルウェー, サーム研究所), KRAUSS, Michael (アメリカ合衆国, アラスカ大学), SALMINEN, Tapani (フィンランド, ヘルシンキ大学), ATKNIN, Viktor D. (ロシア, ロシア科学アカデミー言語研究所), 切替 英雄 (北海学園大学助教授), 田中 克彦 (一橋大学教授), 津田 敏郎 (小樽商科大学助教授)

11月15日 萱野 茂 (参議院議員) 夫妻

11月18日 赤木 攻 (大阪外国語大学学生部長)

11月25日 近畿二府四県教育長協議会一行
谷口 文夫 (大阪府教育委員会教育長), 高井 八良 (滋賀県教育委員会教育長), 安原 道夫 (京都府教育委員会教育長), 芦田 弘逸 (兵庫県教育委員会教育長), 西川 彰 (奈良県教育委員会教育長), 西川 時千代 (和歌山県教育委員会教育長)

11月28日 M. R. CHITRABONGS, Chakrarot (タイ, 国家文化委員会渉外課長)

11月29日 BRANDT, Klaus J. (ドイツ, リンデン博物館極東美術館部長), 梶谷 宣子 (アメリカ, メトロポリタン美術館保存部長)

中国少数民族代表团一行 団長: 吳 金 光 (中華人民共和国, 国家民族事務委員会外事司連絡処処長) 他

12月6日 博物館学国際協力セミナー一行
TSHERING, Gyem (ブータン, パロ国立博物館上級助手), NAOVARATH, Soulaphon (ラオス, ラオス情報文化省博物館考古局技官), HAJI ABAS, Khamis Bin (マレーシア, マラッカ文化博物館学芸員兼新博物館群準備室員), HAJI MANSOR, Ismail Bin (マレーシア, サバ州立博物館学芸員補), TSEDMAA, Damdinsuren (モンゴル, モンゴル文化省博物館専門官), INCHERDCHAI, Jarunee (タイ, バンコク国立博物館学芸員), RAVAONATOANDRO, Aldine (マダガスカル, 情報文化省・女王宮博物館長), WALE, Edward (ソロモン諸島, ソロモン国立博物館学芸員)

12月9日 ロシア極東芸術行政専門家一行

12月15日 王 長 淦 (中華人民共和国, 福州市公安局局長), 林 强 (中華人民共和国, 福州市人民政府副市長)

中国教育行政官代表团 団長：
張 榮（中華人民共和国，
国家教育委员会監察局長）他

12月16日 中国民族文化遺産保護及び発展
代表团 団長：陳 虹（中
華人民共和国，国家民族事務委
員会副主任），沈 昌 榮（中
華人民共和国，中国少数民族対
外交渉協会理事），占巴扎布（中
華人民共和国，国家民族事務委
員会外事司副司長），謝 啓
晃（中華人民共和国，中国民族
博物館準備委員会副主任），傅
東（中華人民共和国，中
国国家財政部文教行政司文化処
処長），索 文 清（中華人民
共和国，民族文化宮展覽館館
長），宗 立 人（中華人民共
和国，国家民族事務委員会弁公
庁秘書），王 海 清（中華人
民共和国，国家民族事務委員会
外事司干部）

12月22日 苔米地行三（財団法人日本船舶
振興会常務理事）

国立民族学博物館研究報告 19巻 総目次

19巻 1号

崎山 理：ヒリモトゥ語の類型：辞順と後置詞	
——KWIC 資料に基づく通言語的研究——	1
後藤 明：ハワイ諸島の国家形成と人口論的基盤	19
聶 莉莉：中国農民社会における儒教の影響の実態	
——東北地方の実地調査に基づいて——	61
金 尚寶：東アジアにおける儀礼的饗宴	
——その構造の比較研究——	95

19巻 2号

安村 直己：植民地期メキシコにおけるインディオ騒動の政治経済学	
——1774年トラルマナルコ村（チャルコ地方）の事例——	173
永渕 康之：1917年バリ大地震	
——植民地状況における文化形成の政治学——	259
慶田 勝彦：ギリアマにおける妖術告発とパバイヤのキラホをめぐる噂	311

19巻 3号

林 勲男：フィーとウダ・ラースあるいは骨と肉	
——ペダムニ族の社会構造と世界観——	359
岸上 伸啓：現代ネツリック・イヌイット社会における社会関係について	
スチュアート ヘンリ ——カナダ国北西準州ベリーベイ村の事例を中心に——	405
加藤 隆浩：ペルー・クスコ市におけるクルス・ペラクイの変容	449
Komei Hosokawa : Retribalization and Language Mixing: Aspects of Identity Strategies among the Broome Aborigines, Western Australia	491

19巻 4号

大塚 和義：ニヴフのアザラン獵と送り儀礼	543
小門 典夫：涼山彝族の口誦詩にみえる漢族のイメージ	587
Chan Kwok Bun : Values and Chinese Immigrant Entrepreneurship in Singapore	633
Claire Chiang See Ngoh	

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - （1）国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - （2）本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - （3）その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

- 1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 19巻4号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

清水 昭 俊

庄 司 博 史

新 免 光 比 呂

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

松 山 利 夫

安 村 直 己

横 山 廣 子

平成7年3月30日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 19巻4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.19 no.4
1994

OHTSUKA, Kazuyoshi

Nivkh Seal Hunting and Ritual

KOKADO, Norio

Images of the Han-Chinese Reflected in the Oral
Poetry of the Liang-shan Yi

CHAN, Kwok Bun
CHIANG, Claire See Ngoh

Values and Chinese Immigrant Entrepreneurship
in Singapore



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X